

觀音寺市内遺跡発掘調査概要報告書

平成14年度国庫補助事業報告書

詳細分布調査概要報告書Ⅱ

2003. 3

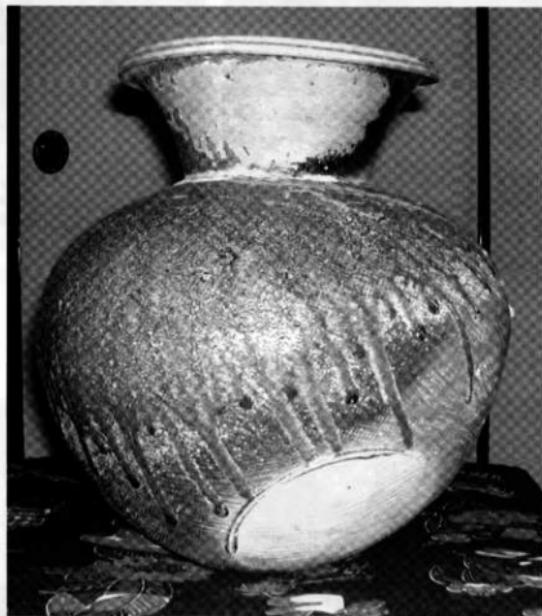
觀音寺市教育委員会



みこし山塚(南東側から撮影)



地神塚(南側から撮影)



幸助藏古墳出土須恵器

（河内）幸助古墳出土

例　　言

1. 本書は、観音寺市教育委員会が平成14年度国庫補助事業として実施した、観音寺市内遺跡発掘調査事業の詳細分布調査概要報告書である。
2. 今回の調査は、香川県観音寺市旧観音寺町地区（八幡町、有明町を除く）、常磐地区（植田町、出作町、流岡町、村黒町）、一ノ谷地区（中田井町、古川町、本大町、吉岡町）、豊田地区（原町、新田町、池之尻町）を対象地区とした。
また、重点調査地区として豊田地区新田町字堂ノ岡・立石地区周辺を対象とし、お塚さん、みこし山塚、地神塚、経塚の地形測量とトレンチ調査（経塚）を実施した。
3. 発掘調査、調査地区内の分布調査及び本書の執筆・編集は、観音寺市教育委員会事務局生涯学習課 文化振興係 主査 久保田昇三が担当した。また、出土遺物の整理、実測、トレースの一部は一薫智代美が担当した。
4. 挿図の一部に観音寺市全図其の1(1/10,000)、観音寺都市計画図13(1/2,500)を使用した。
図面の方位はすべて磁針方位で示した。また、実測図の縮尺はすべてスケールで表示した。
5. 出上遺物は観音寺市郷土資料館で保管している。
図面・写真等は観音寺市教育委員会事務局で保管している。
6. 本事業の実施にあたっては、石井義隆氏【お塚さん】、（宗）村社金安神社 代表総代 片桐義夫氏【みこし山塚】、西山正美氏【地神塚】、小野一孝氏【経塚】、発掘調査に携わった松岡豊史氏、坂田昇氏、西山秋久氏、牧野巧氏にご協力を頂いた。記して、謝意を表します。

目 次

グラビア・例言・目次

	頁
1.はじめに	1
2.調査対象地区の概要（立地と環境）	1～2
3.分布調査結果	2～9
(1)おもな遺跡の概要 ①鎌子塚古墳 ②青塚古墳 ③黒島林1号古墳 ④幸助戸古墳 ⑤長砂古4号古墳 ⑥黒島林8号古墳 ⑦桶ノ口遺跡 ⑧向井・西の岡遺跡 ⑨古川遺跡 ⑩村黒遺跡 ⑪久染遺跡 ⑫大原東古墳 ⑬大塚 ⑭四ツ塚 ⑮青塚遺跡 ⑯黒島林大龍王古墳	
4.参考・引用文献	4
◆調査地区内遺跡分布図（1）	5
◆調査地区内遺跡分布図（2）	6
◆調査地区内遺跡分布図（3）	7
◆調査地区内遺跡一覧表	8～9
5.重点調査地区	10～18
(1)堂之岡・立石地区周辺の概要と遺跡分布 ◆堂之岡・立石地区周辺遺跡分布図（1/2,500）	11
①お塚さん	10
②みこし山塚	12
③地神塚	12
④経塚	12～13
(2)まとめ	13
◆お塚さん・地神塚地形測量図	14
◆みこし山塚地形測量図	15
◆経塚地形測量図	16
◆土層図（経塚） I. トレンチ1（北東側）・トレンチ3（南西側） II. トレンチ2（北東側） III. トレンチ2（南西側） ◆出土遺物実測図・拓本	17
6.写真目次	18
	19

1. はじめに

本事業は、観音寺市内に所在する埋蔵文化財の位置、範囲及び性格等を把握するため詳細な分布調査を実施し、今後の文化財保護行政の基礎資料とするものである。

平成14年度においては、調査対象地域を観音寺市中部地域(旧観音寺町地区(八幡町、有明町を除く)、常磐地区、一ノ谷地区、豊田地区)に設定し、基本的には踏査により現地確認を行い分布調査を実施した。

また、調査対象地区内に重点調査区域を設けた。重点調査区域は豊田地区新田町字堂ノ岡・立石地区周辺を対象とし、踏査とあわせて地形測量(お塚さん、みこし山塚、地神塚、経塚)を中心とした遺跡の確認を行った。なお、経塚については、以前に開墾などで掘られたことが伝えられているが、遺跡の範囲、性格等が未詳であったため、今後の遺跡の保存を図るために資料を得るために地形測量に加えトレント調査を行った。

2. 調査対象地区の概要(立地と環境)

今年度の調査対象地区は、古代の讃岐国刈田郡坂本郷(旧観音寺町、植田町、出作町)、高屋郷(村黒町、流岡町、吉岡町)、山本郷(中田井町、池之尻町、原町、新田町)に比定される地域を中心とした地域である。

調査地区内を郷域に分け、その概要を記することにする。

①坂本郷(旧観音寺町、植田町、出作町)

瀬戸内海(燧灘)に面する海岸線から観音寺市街地とそれより東の平野部(国道11号線付近まで)に該当する地域である。

沿岸部(字加茂、字見卓)に近い場所は埋め立てなどで比較的新しく造成された地域でありこれまでに遺跡の所在は確認されていない。

旧観音寺町の市街化された区域については、高丸城(観音寺城)や白浜遺跡などの中世から近世にかけての遺跡が確認されているが、それより古い時代の遺跡は未確認である。この地域は現在、市役所をはじめとする公共施設や文教施設が集中しており商業地や住宅地とあいまって市街地を形成している。

市街地の東方の平野部分は近年住宅建設が増加する傾向にあるが、まだまだ農用地が多く残る地域である。遺跡分布図でも確認できるように古代条里地割が部分的ではあるが残存していることが確認できる。また、植田町には市内でも数少ない前方後円墳であったといわれる大塚や野津古塚(どちらも現在は墓地になっている。)があり、菅原道真ゆかりの地と伝えられる菅原神社(植田天満宮)なども所在する。

②高屋郷(村黒町、流岡町、吉岡町)

2001年3月刊行の詳細分布調査概要報告に掲載以外の高屋郷の地域である。基本的には財田川以南の地域で北側には三野郡と接し、東は国道11号線付近で山本郷に接する地域である。

流岡町には、延喜式内社の加麻良神社が鎮座する。村黒町には、讃岐山脈からゆるやかにのびる舌状の台地の先端部に村黒遺跡が確認されている。この台地の北側には平野が広がる地形となっている。

③山本郷(中田井町、池之尻町、原町、新田町)

国道11号線から東側、財田川から南、東は三豊郡山本町に接し、南は栗井町や木之郷町が境と

なっている地域である。

中田井町をはじめとする古川町、本大町は平野部に位置し、四国横断自動車道建設に伴う発掘調査では弥生後期を中心とする一ノ谷遺跡群が確認されている。また、古川遺跡（古川銅鐸出土地）についてもこの平野部に位置している。

原町、池之尻町、新田町については、前述の舌状台地の中心部にあたり、確認されている遺跡は数多い。おもなものには、原町の青塚古墳（古墳時代中期・前方後円墳）や鎧子塚古墳（古墳時代・後期）で代表される母神山古墳群の一部と今回重点調査地区とした堂ノ岡・立石の古墳群などがある。

3. 分布調査結果

分布調査にあたっての基本作業を次の2項目とした。（観音寺市北部地域を対象とした平成12年度と同様）

- ①現今まで確認されている遺跡の現地確認を行い位置等の再検証を行う。（周知の遺跡の再検証）
- ②文献等はあくまでも参考程度にし、踏査や聞き取り調査を中心に調査を実施し、新しい遺跡の確認を行う。また、遺跡とは断定できないが、参考となる場所についても、記録する。

今回の調査結果を調査地区内遺跡分布図(1)、(2)、(3)と調査地区内遺跡等一覧表にまとめてた。以下、図表の説明を加えておく。

◎調査地区内遺跡分布図

- ・この分布図は、字ごとに境界線を入れ、各字名を記入した。
- ・遺跡の位置は●で示した。
- ・遺跡の推定範囲は……で示した。

◎調査地区内遺跡一覧表

- ・表左欄の遺跡番号と分布図番号は対応している。

(1) おもな遺跡の概要

①鎧子塚古墳【地図番号31】市指定文化財（史跡）

池之尻町の三豊総合運動公園内に所在する。二段築成の墳丘をもつこの古墳は、下段の直径30m以上、周囲との比高差が1.5mあり、上段の円丘の直径20m、その高さ3.8mの母神山古墳群ではぬきんでた最大級の墳丘である。埋葬施設は、複室構造の横穴式石室であり、全長9.8m、玄室長5.6m、玄室奥壁幅2.55m、玄室高3.2mの規模である。出土品には、銀製冠立飾、单鳳環頭大刀柄頭、三葉環頭柄頭、金銅製馬鈴（6）、トンボ玉、銀製空玉や須恵器など多くの出土品がある。時期は6世紀末と考えられる。

②青塚古墳【地図番号23】市指定文化財（史跡）

原町に所在する帆立貝式と考えられる前方後円墳である。現在、前方部の墳丘は失われているが、全長44m、前方部長約10mあり、後円部は二段築製で、下段は直径33m、高さ1.5m前後、上段は直径25m、高さ3m前後のもので、周溝を配している。過去には円筒埴輪が並んで出土したという記録がある。また、現在も葺石と考えられる石材が散在している。

また、埋葬施設は部分的に破壊されていることが予測されるが、室本町の丸山古墳と同様に阿蘇

溶結凝灰岩製の石棺の一部が出土していることや時期の点からも検討課題である。

③黒島林 1 号古墳【地図番号 29】

昭和 41 年 11 月、市内池之尻町の觀音寺荘建設工事に伴い発見され、調査された。直径 20m、高さ 4m 前後の円墳で、全長 5.8m の両袖式の横穴式石室である。天井石や側壁の大部分が失われ石室の基底部のみの残存であった。出土品は、馬具類、鉄刀、鐵鎌、鐵鎌、耳環、紡錘車、須恵器などであり、築造年代は 6 世紀末であり、7 世紀前半に追葬がされたとみられる。

現在は、元の場所から東側の三豊総合運動公園トリムの森に移築保存されている。

④幸助藪古墳【地図番号 36】

現在は存在していないが、新田町教善寺の裏手にあった古墳である。このあたりは大正初期に開墾され同古墳が発見されたようである。埋葬施設は横穴式石室で昭和 37 年の埋蔵文化財包蔵地カードによれば狭道があり、玄室は奥行約 4m、幅 2m、高さ 1.5m の規模であったようである。

出土品については 1 点であるが須恵器の壺(完形品)が付近の民家に残されている。

⑤長砂古 4 号墳【地図番号 27】

四国横断自動車道建設に伴う発掘調査で発見された。墳丘規模は直径 12m~14m 程度の円墳と推定されている。横穴式石室規模は玄室長 2.6m、玄室奥壁幅 1.7m である。特徴的なのは玄室の床面が二重構造になっていることである。第 1 床面は 4~10cm の礫が敷かれ、下層の第 2 床面は中央部に排水溝を、その両側は 10~20cm 程度の礫を敷き詰める構造である。加えて、棺を置くための棺台ではないかと思われる床面の石の配列状況も確認されている。

⑥黒島林 8 号古墳【地図番号 29】

発掘調査は昭和 56 年に実施され、出土品に特徴的なものがある。鉄刀の鐔縁金具と切羽縁金具に唐草文が象嵌されていることである。

⑦樋ノ口遺跡【地図番号 9】

1987 年の県教委による発掘調査の結果、縄文後期の溝状遺構と弥生前期の木棺墓 34 基が確認された。居住遺構が共存しないことにより、墓地としての性格を有していることが推測できる。

⑧向井・西の岡遺跡【地図番号 21】

中田井町の洪積台地状に営まれており、1985 年の圃場整備事業に伴う事前調査により竪穴住居跡が検出されている。出土遺物から、弥生後期~末期のものと考えられる。

⑨古川遺跡【地図番号 15】

大正 12 年 4 月 17 日に宮武氏によって古川町字南下 1063 番地で銅鐸を発見した。銅鐸の埋納状況は数人からの聞き取りによると、耕作土より下部の土層に鉢を下、柄部を上にし、鍔を上向きに約 45° に傾いた状態で、表土から鉢までは約 60cm であったようである。銅鐸の鋸上がりは不良で、各部分に鋸損じや流水文様の鋸くずれがみられる。鉢は外縁付鉢で、四頭溝文、双頭溝文、連続溝文を配している。身は斜格子横帯で上下に区画される。高さ 45.8cm、重さ 4,347g。

⑩村黒遺跡【地図番号 3】

舌状を呈する洪積台地の先端部にあり、弥生土器、土師器、須恵器が採集されている。須恵器については、蓋杯、高杯、ハソウ、器台、甕があり、陶邑第 1 型式の資料に類すると考えられている。遺構については、3 基の円形竪穴住居が検出されているようであるが、詳細は不明である。

⑪久染遺跡【地図番号 32】

母神山北麓に営まれた弥生後期から古墳時代初期の集落跡。1986 年の調査で方形の竪穴住居 4 基(焼失家屋 1 基含む)をはじめ掘立柱建物跡、溝状遺構が確認されている。また、竪穴住居跡の伴出遺物にはサヌカイト製の打製石包丁などがみられる。

⑫大原東古墳【地図番号 44】

新田町字大原東の觀音寺市と山本町の境界付近の尾根上に立地する。埋葬施設は東方向に開口する横穴式でありすでに天井石や側壁、墳丘の大半は失われている。

⑬大塚【地図番号 11】

植田町字北原に位置する。現在は墓地になっているが、昭和 37 年の埋蔵文化財包蔵地カードによれば大正期には前方後円墳の形を残していたようである。主軸は北東ー南西で、後円部は北東にあったようである。

⑭四ツ塚【地図番号 41】

新田町字四ツ塚に所在した 4 基の古墳である。うち 3 基は荒神社の裏手にあり石室(横穴式)内へ出入り可能であったが、開墾等により破壊されたようである。残りの 1 基はそこから北東に少し離れた民家の裏手にあったようであるが、これも同様に開墾により破壊され詳細は不明である。

⑮青塚遺跡【地図番号 24】

原町字青塚 19 番地 1 で確認された。1992 年の調査で溝状遺構 1 と土坑 1 を検出。溝状遺構は幅 1.6 m、深さ 60 cm で、弥生式土器が出上した。時期は弥生後期後半から末のものである。

⑯黒島林大龍王占墳【地図番号 30】

平成 6 年度に三豊総合運動公園拡張事業に伴い試掘調査が実施された。母神山の頂上部から北に伸びる尾根上に位置する。直径約 20 m の円墳と推定されるが、遺跡の残存状況は悪くかなりの破壊を受けている。出土品は須恵器片が 20 点程度であったが、昭和 62 年 4 月に当遺跡の西側(石室開口方向)の墳裾部付近より須恵器片が多数採集されている。また、前述の須恵器片が採集されたすぐ近くより弥生後期の壺棺が発見されていることも見逃せない。

4. 参考・引用文献

- ・『四国横断自動車道建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書 第七冊 一ノ谷遺跡群<本文編>』
平成 2 年 2 月 28 日 編集(財)香川県埋蔵文化財調査センター 発行 香川県教育委員会
- ・『四国横断自動車道建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書 第五冊 石田遺跡 長砂古遺跡 作田八丁遺跡』
昭和 63 年 3 月 31 日 編集(財)香川県埋蔵文化財調査センター 発行 香川県教育委員会
- ・『觀音寺市誌(通史編・資料編)』昭和 60 年 1 月 1 日 観音寺市

調査地区内遺跡分布図(1)

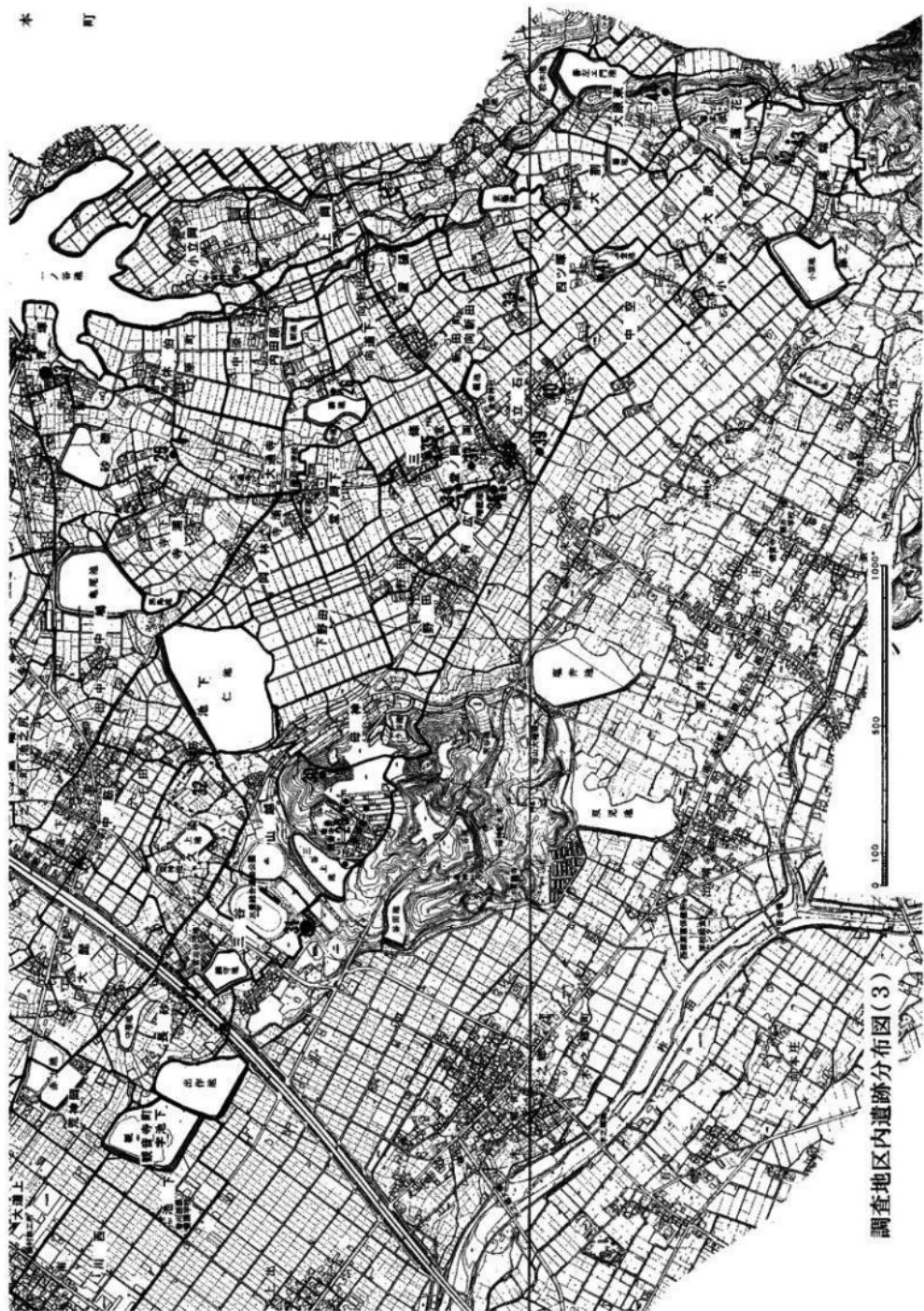


調査地区内遺跡分布図(2)

1000'
500'
0



調査地区内遺跡分布図(3)



調査地区内遺跡一覧表（※番号は遺跡分布図番号と同じ）

番号	遺跡名	所在	埋蔵	時代	時期	内容・規模・特徴
1	高丸城跡（高畠寺跡）	新田寺町（殿跡）	地表	室町	安土桃山	城跡といわれるものが残存
2	百濟道跡	新田町宇賀野 村（古墳）	古墳跡	古墳	後期	円筒埴輪六枚在塚ノ蓋
3	村戸遺跡	新田町宇賀野 村（古墳）	古墳跡	古墳	後期	古墳
4	葛原遺跡	新田町安曇野	古墳跡	古墳	後期	古墳
5	須賀寺跡	新田町宇賀野田	古墳跡	古墳	後期	古墳
6	新田町御門寺跡	新田町御門寺	古墳跡	古墳	後期	古墳
7	坂戸敷遺跡	新田町吉田西坂戸敷	古墳跡	古墳	後期	古墳
8	のくし遺跡	新田町吉田	古墳跡	古墳	後期	古墳
9	猪口遺跡	新田町本大下	古墳跡	古墳	後期	古墳
10	七瀬町御門寺跡	新田町七瀬	古墳跡	古墳	後期	古墳
11	大堀	新田町字大堀	古墳	古墳	後期	前方後円墳（現存は墓壙）
12	七瀬町御門寺跡	新田町七瀬	古墳跡	古墳	後期	古墳
13	野泽古墳	新田町野澤古	古墳	古墳	後期	古墳
14	馬之池浴場跡	新田町宇賀野	古墳跡	古墳	後期	古墳
15	古川遺跡	新田町南下103	古墳跡出土地	古墳	中期	古墳
16	二ツ谷遺跡	新田町宇賀野・美濃 新田町中野・美濃	古墳跡	古墳	後期	古墳
17	古川町所遺跡	新田町字古川所	古墳	古墳	後期	古墳
18	東郷遺跡（原）	新田町東郷	古墳跡	古墳	後期	古墳
19	谷戸が原遺跡	新田町谷戸が原	古墳跡	古墳	後期	古墳
20	日ノ出遺跡	新田町日ノ出	古墳跡	古墳	後期	古墳
21	尚古西の司遺跡	新田町尚古西・西の原	古墳跡	古墳	後期	古墳
22	千軒田遺跡	新田町千軒田	古墳跡	古墳	中期	古墳
23	青柳古墳	新田町青柳	古墳	古墳	中期	古墳
24	青龍遺跡	新田町青龍	古墳	古墳	後期？	古墳
25	砂利古墳	新田町青龍	古墳	古墳	後期？	古墳
26	中野古墳	新田町中野	古墳	古墳	後期	古墳
27	長良古墳跡	新田町長良砂古	古墳跡	古墳	後期	古墳
28	日出遺跡	新田町日出	古墳跡	古墳	後期	古墳
29	足利山古墳群裏見支群	足利山古墳群裏見支群	古墳	古墳	後期	古墳
30	高島町大野古墳跡	足利町大野・李詮跡	古墳	古墳	後期	古墳
31	足利山古墳	足利町三谷	古墳	古墳	後期	古墳
32	八幡遺跡	足利町宇賀ノ岡	古墳跡	古墳	後期	古墳
33	中野山遺跡	新田町中野山	古墳跡	古墳	後期	古墳
34	越前古墳	新田町宇賀ノ岡103之	古墳	古墳	後期	古墳
35	宮之間遺跡	新田町宇賀ノ岡	古墳	古墳	後期	古墳
36	高島町六角	新田町宇賀ノ岡	古墳	古墳	後期	古墳
37	地母神	新田町宇賀ノ岡1265	古墳	古墳	後期？	古墳
38	カニシ山城	新田町宇賀ノ岡1211	古墳	古墳	後期？	古墳
39	お母さん	新田町立石8922	古墳	古墳	後期？	古墳
40	かみ（大口）古墳	新田町記念	古墳	古墳	後期？	古墳
41	四ノ塚	新田町宇賀ノ原	古墳	古墳	後期	古墳
42	杉原遺跡	新田町大西	古墳	古墳	後期	古墳
43	尾澤古墳	新田町大西	古墳	古墳	後期	古墳
44	人頭塚古墳	新田町大西	古墳	古墳	後期	古墳

5. 重点調査地区

(1) 堂ノ岡・立石地区周辺の概要

本地区は、観音寺市新田町字堂ノ岡、字立石に該当し、南はすぐ栗井町に接する場所である。栗井町の菩提山麓からのびる標高50m程度の丘陵状の洪積台地の南側縁辺部に位置する。栗井町側との比高差は約7mあり、眺望がひらける場所となっている。この地区的中央部には浄土真宗興正寺派の教善寺があり、すぐ南東側を金毘羅参詣道が南北から北東方向へと通っている。また、金毘羅道の縁辺には金安神社がある。

今回の重点調査地区では、この堂ノ岡・立石地区に所在する遺跡の調査を対象とした。特に、お塚さん、みこし山塚、地神塚、經塚については、これまでその存在は知られていたが聞き取り調査程度の資料しかなく、今後の保存を図るために具体的な資料を得るため、地形測量を4箇所、トレンチ調査を1箇所(經塚)実施した。

また、右頁により詳しい分布図(1/2,500)を掲載しているので、少し説明を加えておく。
図中番号1～4は後段に記すので省略するが、5～8以下を若干説明しておく。

・番号5. 遊慶庵跡

現在は墓地となって建物もなにもないが、この地にかけては遊慶庵といわれる庵があったようである。昭和37年の埋蔵文化財包蔵地カードの調査者が推定している場所である。平面は方形(25×20m)であり周囲に石垣が築かれて周囲からは70～80cm程高くなっている。現地の北西隅部分には石室の用材とみられる石材がいくつか残されている。また、今回、須恵器片の採集をしているのでその可能性は否定できない。

・番号6. 幸助藏古墳

この古墳の存在は確実であるが、具体的な場所については教善寺の裏の土地であることは間違いないが、明確ではないので土地の形状から推定した位置を示している。

・番号7. 立石(大石)古墳跡

和泉層の基底礫岩と思われるこの3mを越えるこの巨石を、地元の人の多くは立石と呼んでいるが、実は、立石は別にあたらしく、大石と呼ぶのが正しいらしい。過去に、須恵器(甕)の出土が確認されていて、破壊された古墳の石室用材の一つではなかろうか。

・番号8. 堂之岡遺跡

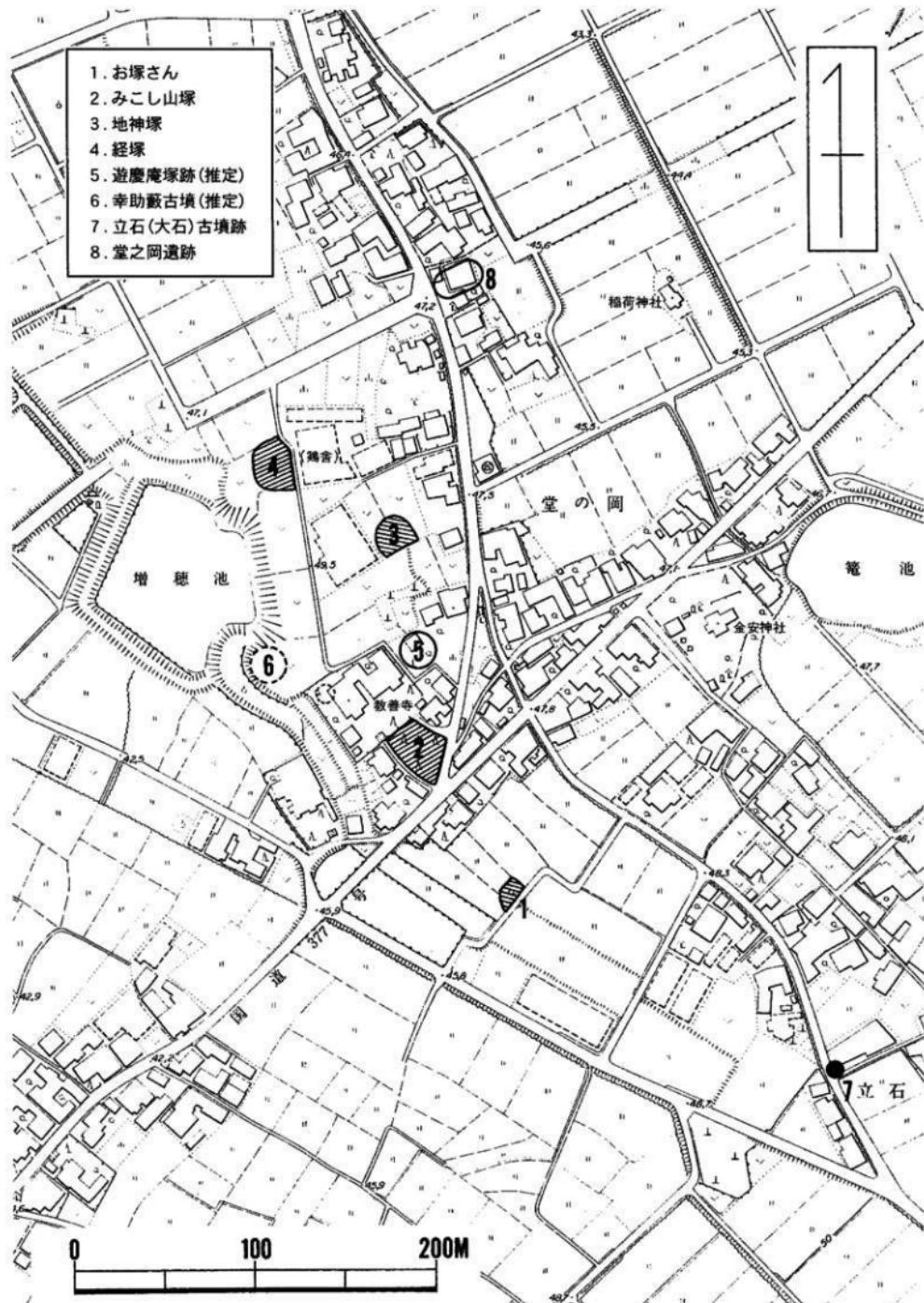
平成元年に道路建設に伴う発掘調査で確認された。溝2、土坑14、ピット180余りの遺構が検出され、時期的には近世中頃～後半頃のものである。

それでは、以下に地形測量とトレンチ調査の結果を記することにする。

①お塚さん

観音寺市新田町字立石892-2に位置する。周囲は農地で囲まれているが、北側はコンクリート畦畔と水路、東・南・西側は圃場整備に伴う農道と農地であり、墳丘自体はかなりの破壊を受けているので、築造当初の姿の復原は困難である。2基の石塔がある墳頂部高は標高約50mであり、周囲との比高差は西側水路で約2.5m、東側農道で約2m程度の残存状況である。埋葬施設についても相当な破壊を受けていることが考えられ、1～2m超の巨石(和泉層の基底礫岩)が6個点在している。また、墳丘南側に露出する石材を確認できるが、それが仮に残存する石室の側壁であるとす

- 1. お塚さん
- 2. みこし山塚
- 3. 地神塚
- 4. 経塚
- 5. 遊慶庵塚跡(推定)
- 6. 幸助藪古墳(推定)
- 7. 立石(大石)古墳跡
- 8. 堂之岡遺跡



るならば、石室開口は南南西方向であると考えられるが、石室内にはすべて土砂が流入していることになる。次に、墳丘規模であるが、前述のとおり復原は困難でありあえて推定するならば、直径15m程度の円墳ではないかと考えられる。

②みこし山塚

観音寺市新田町字堂ノ岡1274-1に所在する。金安神社の祭礼の際の神事場となっている。周囲は道路、寺院、住宅地となっており、墳丘とそれらの間には2~3m程の平坦な通路が道路以外の三方を取り巻いている。現存する墳丘の最上部は標高約52.2mで周囲との比高差は道路側で2.7m、教善寺側で1.8m、住宅地側で2.2mある。墳形については、現状は変形した台形状を呈するが、周囲からの削平や土盛りなどの形状変更がかなりされていることが想定され、詳細な発掘調査の機会を待ち判断せねばならないが、現段階では直径約30m近くの円墳であると考えられる。

また、石室開口方向は、墳丘南の住宅地側の標高51.2m付近に一石ではあるが、確認できる範囲で長さ80cm×幅30cmの砂岩(地形測量図中に斜線で示した。)がある。仮に、これが石室の石材であるとするならば、先述のお塚さんと同様南南西に開口するものと考えられる。近くの古老に話を聞くと石室が開口していた状況は過去に無く、未発掘の石室である可能性が高い。

③地神塚

観音寺市新田町字堂ノ岡1285に所在する。墳丘周囲の平坦地には、滑り台、プランコ、砂場、鉄棒等の遊具が備え付けられ、墳丘上部の平坦面には地神祠が祀られている。

現在の墳丘上部の最高所は標高約52.8mある。周囲との比高差は南側で1.6m、北側で1.8mある。墳形は周囲の土地区画や残存する墳丘の状態から円墳であると考えられる。しかし、墳丘規模は特に墳丘の北、西、南側の削平の度合いがひどく復原が困難ではあるが、墳丘直径約15m前後のものと思われる。また、周囲の土地区画の状況から周溝の存在も考慮に入れた保護措置が今後必要であると思われる。

④経塚

観音寺市新田町字堂ノ岡1313-2に所在する。昭和37年の埋蔵文化財包蔵地カードによれば土地所有者の方が時代は特定できないが何回か発掘しているようである。最初の発掘で鉄刀、高杯、勾玉、管玉が出土しているが散逸している。

地形測量図をみると、墳丘の最高所は52.7mであり、周囲との比高差は南側で1.6m、北側で1.5mある。墳形は現状をみると方形であるが、後述する石室の配置とはしっくりこない。やはり、開墾や過去の発掘等で封土が削平された結果このような形になったのであって、もともとは円墳であったと考えるのが妥当ではないかと考える。そのようなことから、古墳の規模を推定すると直径約25m程度になると考えられる。

次に、各トレントの状況を記することにする。

◎トレント1 ((4m×1m)+(0.6m×0.7m)+(0.5m×1.2m))

墳丘上で唯一石材が露出している場所であり、また、地形測量図の状況から本トレントの区域を設定し、遺構の残存状況を確認するため調査を開始した。

高さ1.2m超、幅約2.5m、奥行0.5mの板状の巨石A(砂岩)を確認した、恐らくは横穴式石室の玄室の側壁の基底石ではないかと思われる。この巨石Aは北西側(内側)に約5度傾斜している。表土下、約1.5mまで検出したところ、最下層付近で円礫が混入する層が確認できたが、明確な埋葬床面は確認できなかった。また、遺物についても古墳時代のものはごく少量であった。

◎トレンチ2 (3.5m×1m)

トレンチ1にはほぼ平行に少し北西寄りに、トレンチ1で確認した巨石こともあり、狭道の状況や石室の規模確認のために設定した。本トレンチで判明したことは、大規模な破壊を受けていることである。表土下1.8m近くまで検出作業を行ったが、最下層の礫層(土層図Ⅱのスクリーントーンの部分)からは須恵器片とともに新しい瓦片が出土する状況である。しかし、土層図Ⅱの最下層の斜線で示した比較的大き目の石材が左右2mの間隔を置いて確認することができた。石室全体を検出してみなければ断言できないが、トレンチ1の巨石Aの延長線上のもので、石室の基底部に相当するものであると考えられる。

また、トレンチの中央部に長さ1.6m、幅0.6m超、高さ0.8mの巨石D(砂岩)を検出した。位置的には、前述の石室の入口を塞ぐような状態である。一つの可能性としては、玄門立柱が破壊を受け倒れたものであると考えられる。現時点では判然としないが、仮にそれが玄門立柱であるとするなら玄室の長さが確定でき約5mであることが推測可能となる。

◎トレンチ3 (1m×1m)

トレンチ1から北西へ1.2m寄ったところに設定した。ここでは、トレンチ1の巨石に対応する別な巨石B(奥行0.4m)の一部とその内側に接して直交する三つ目の巨石Cの一部(玄室の奥壁?)を確認した。これによって、石室の幅は約2mあることが推測することができた。

◎トレンチ4 (1m×1m)

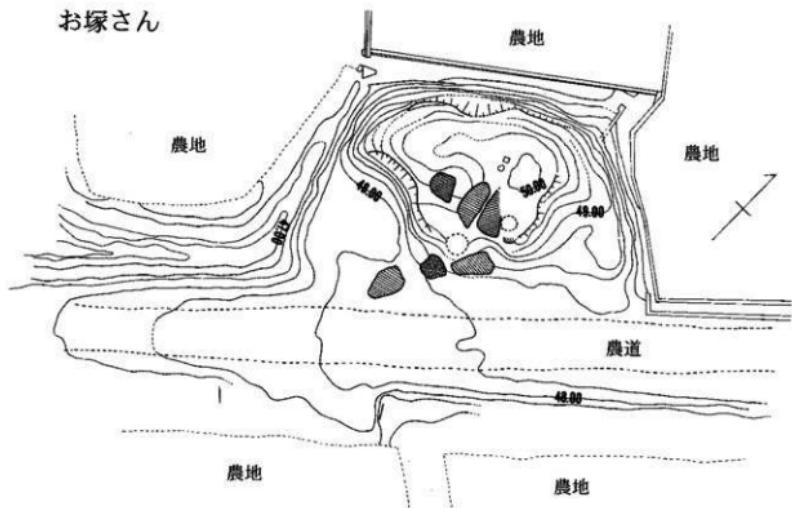
トレンチ3で確認した巨石Bの大きさ等や石室の形状を明確につかむために設定した。地表下1mまで検出作業を行ったが明確な遺構は確認できなかった。

今回の調査ではトレンチを4箇所設定したが、うち3箇所で石室の残存状況を確認できた。今後、全体の状況が把握される機会を待たねばならないが、現時点では推測できることは、埋葬施設は南西方向に開口する横穴式石室で玄室長約5m、玄室奥壁幅約2mの規模で板状の巨石A、B、Cを玄室奥の基底石として配置する構造をとっていることである。また、築造年代はも少し検討しなければならない点もあるが、出土遺物から6世紀後半のものと思われる。

(2)まとめ

重点調査地区には確實なもので6基の古墳があり、それに加え伝承であるとか表採または土地の形状などで可能性のあるものを含めると8基となる。恐らく、古墳時代においてはもう少し多い群を形成していたのだろう。数的には近くの母神山古墳群に比すれば見劣りもするが、支群単位でみた場合とか、個々の内容を詳しく比較すればどうであろうか。みこし山塚や経塚のような比較的大きな墓が造営されていることは看過できない。また、立地の面は条件が異なることもあるが、独立丘陵の尾根上に立地するものが多い母神山古墳群に対して、比較的なだらかな洪積台地状に、ある程度の間隔を保ちながら群を形成する違いをみせている。時期的には両者が並行するようであるので、このようなことからも、これまであまり注目されていなかった堂ノ岡・立石の古墳群の性格を評価する場合、今後において母神山古墳群との関係などを念頭にいれ検討する必要性があるのではないか。

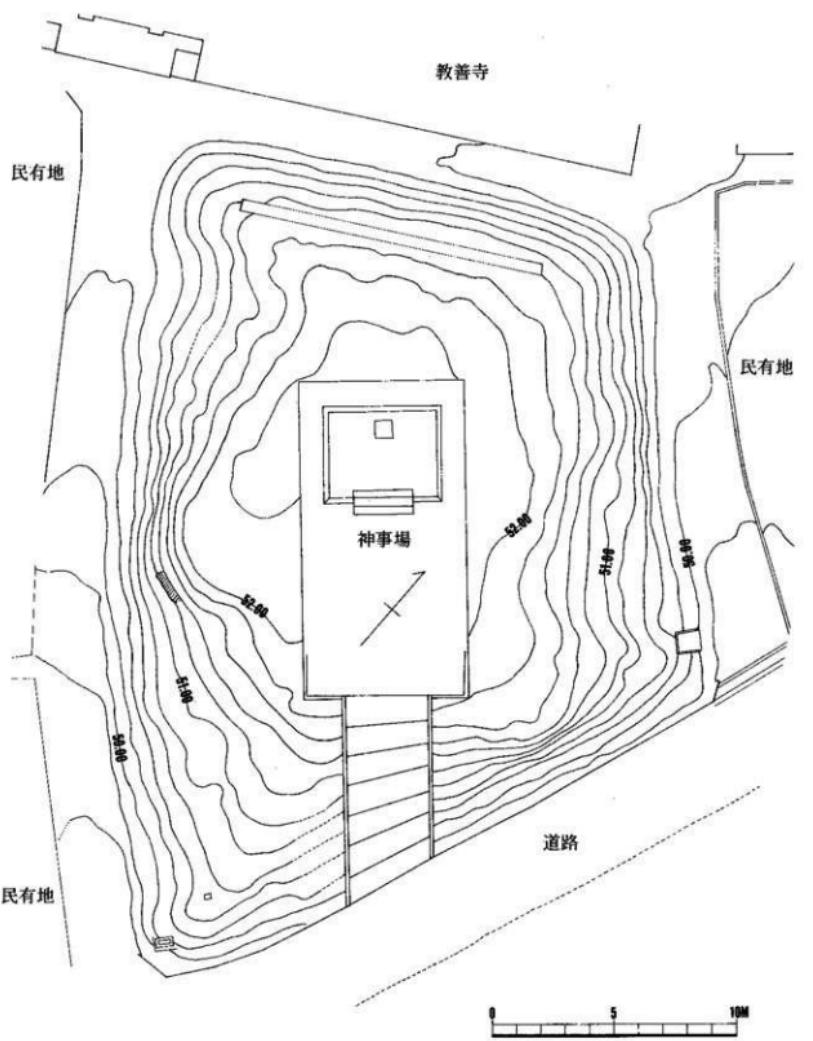
お塚さん



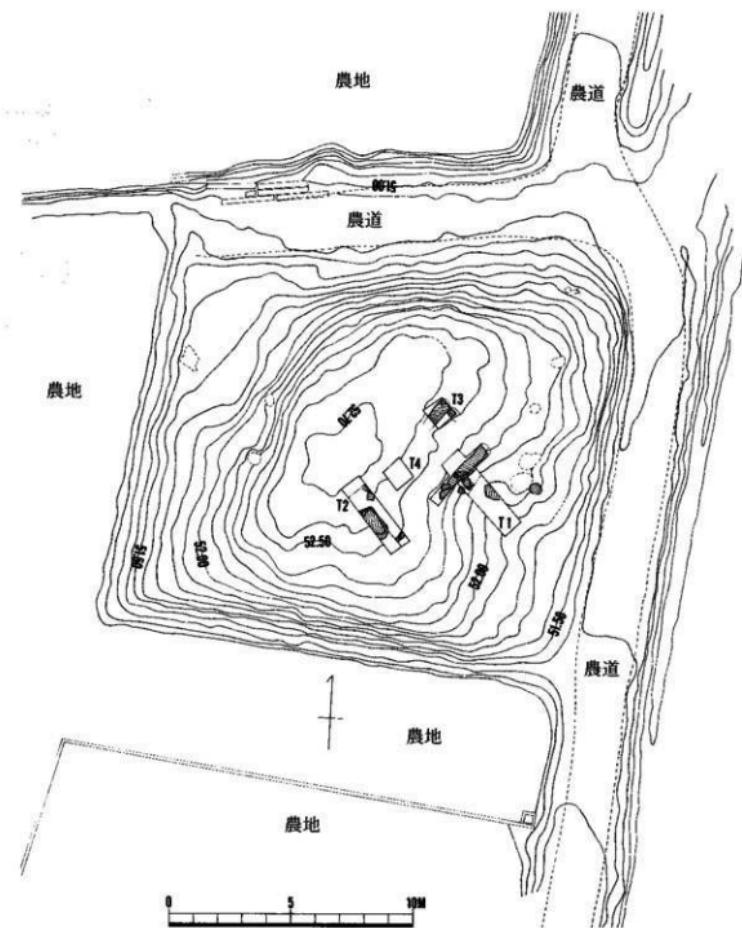
地神塚



お塚さん・地神塚地形測量図



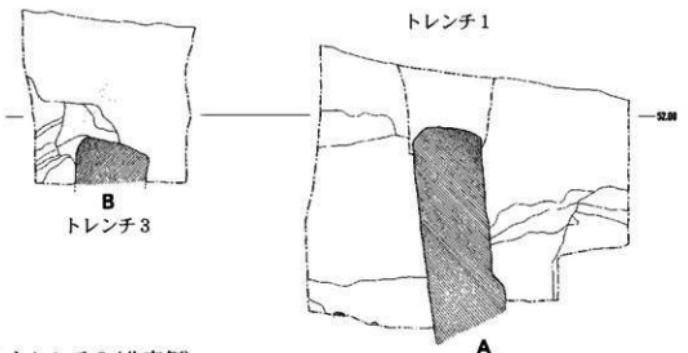
みこし山塚地形測量図



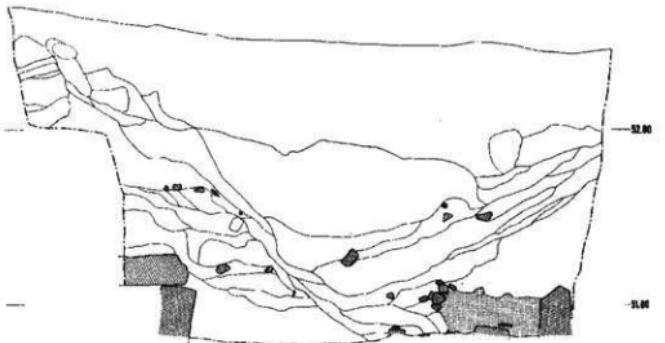
経塚地形測量図・トレンチ配置図

土層図

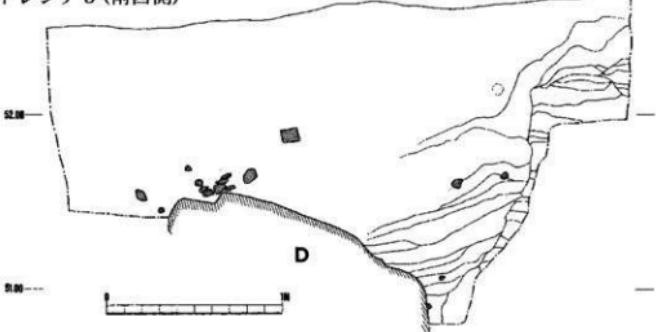
I. トレンチ1・3



II. トレンチ2(北東側)



III. トレンチ3(南西側)



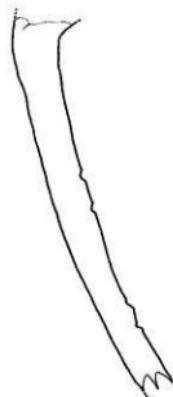
出土遺物実測図・拓本



1



2



3



4



5



6

- 1. 経塚(表面採集)
- 2. 同上(トレンチ 2)
- 3. 同上(トレンチ 2)
- 4. 同上(トレンチ 2)
- 5. 同上(表面採集)
- 6. 同上(表面採集)

6. 写真目次

	頁
1. お塚さん（全景・南側から撮影）【地図番号 39】	20
2. お塚さん（全景・西側から撮影）	
3. みこし山塚（全景・北東側から撮影）【地図番号 38】	
4. みこし山塚の石室の一部と考えられる石材の露出状況	
5. 地神塚（東側から撮影）【地図番号 37】	
6. 地神塚（全景・北西側から撮影）	
7. 地神塚墳丘上部の平坦面の状況	21
8. 経塚（全景・北東側から撮影）【地図番号 34】	
9. 経塚（全景・南側から撮影）	
10. 経塚（全景・南西側から撮影）	
11. 経塚・トレンチ 1 の遺構検出状況（1）	
12. 経塚・トレンチ 1 の遺構検出状況（2）	
13. 経塚・トレンチ 1 の土層の状況（北東側）	22
14. 経塚・トレンチ 2 の遺構検出状況（1）	
15. 経塚・トレンチ 2 の遺構検出状況（2）	
16. 経塚・トレンチ 2 の土層の状況（北東側）	
17. 経塚・トレンチ 3 の遺構検出状況	
18. 経塚・トレンチ 3 の土層の状況（南西側）	
19. 経塚・トレンチ 4 の土層の状況（南西側）	23
20. 経塚・トレンチ 2 の巨石と北西側の土層の状況	
21. 経塚・出土遺物 1 【実測図・拓本番号 2】	
22. 経塚・出土遺物 2 【実測図・拓本番号 3】	
23. 経塚・出土遺物 3 【実測図・拓本番号 4】	
24. 経塚・出土遺物 4 【実測図・拓本番号 5】	
25. 大塚【地図番号 11】	24
26. 野津古塚【地図番号 13】	
27. 古川銅鐸出土地【地図番号 15】	
28. 巫子塚（平塚）【地図番号 18】	
29. 青塚古墳（後円部）【地図番号 23】	
30. 砂礫古墳【地図番号 25】	
31. 大原東古墳【地図番号 44】	25
32. 四ツ塚古墳跡【地図番号 41】	
33. 立石（大石）古墳跡【地図番号 40】	
34. 鐘子塚古墳の横穴式石室【地図番号 34】	
35. 黒島林大龍王古墳【地図番号 30】	
36. 黒島林 1 号古墳石室（移築）【地図番号 29】	



1. お塚さん(全景・南側から撮影)【地図番号 39】



2. お塚さん(全景・西側から撮影)



3. みこし山塚(全景・北東側から撮影)【地図番号 38】



4. みこし山塚の石室の一部と考えられる石材の露出状況



5. 地神塚(東側から撮影)【地図番号 37】



6. 地神塚(全景・北西側から撮影)



7. 地神塚墳丘上部の平坦面の状況



8. 経塚(全景・北東側から撮影)【地図番号 34】



9. 経塚(全景・南側から撮影)



10. 経塚(全景・南西側から撮影)



11. 経塚・トレンチ 1 の遺構検出状況(1)



12. 経塚・トレンチ 1 の遺構検出状況(2)



13. 経塚・トレンチ 1 の土層の状況(北東側)



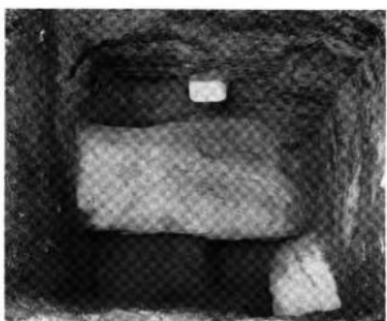
14. 経塚・トレンチ 2 の遺構検出状況(1)



15. 経塚・トレンチ 2 の遺構検出状況(2)



16. 経塚・トレンチ 2 の土層の状況(北東側)



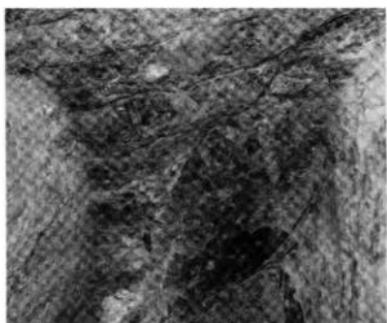
17. 経塚・トレンチ 3 の遺構検出状況



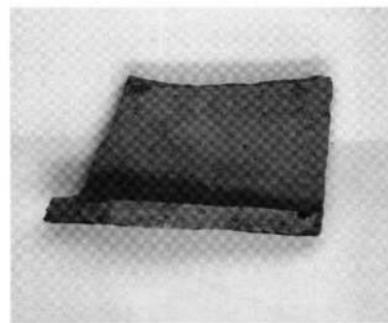
18. 経塚・トレンチ 3 の土層の状況(南西側)



19. 経塚・トレンチ 4 の土層の状況(南西側)



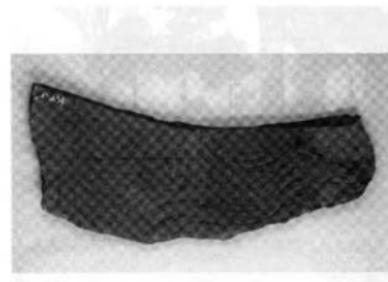
20. 経塚・トレンチ 2 の巨石と北西側の土層の状況



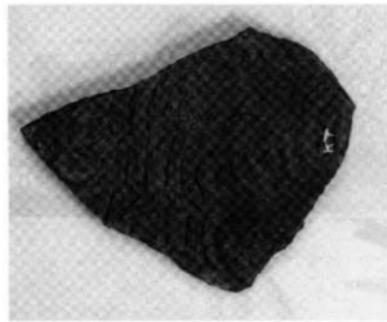
21. 経塚・出土遺物 1【実測図・拓本番号 2】



22. 経塚・出土遺物 2【実測図・拓本番号 3】



23. 経塚・出土遺物 3【実測図・拓本番号 4】



24. 経塚・出土遺物 4【実測図・拓本番号 5】



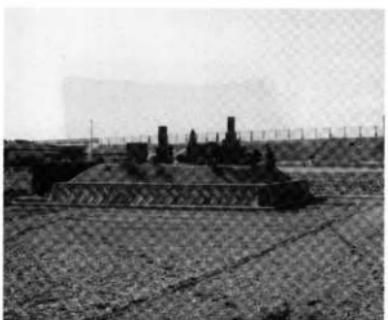
25. 大塚【地図番号 11】



26. 野津古塚【地図番号 13】



27. 古川銅鐸出土地【地図番号 15】



28. 巫子塚(平塚)【地図番号 18】



29. 青塚古墳(後円部)【地図番号 23】



30. 砂礫古墳【地図番号 25】



31. 大原東古墳【地図番号 44】



32. 四ツ塚古墳跡【地図番号 41】



33. 立石(大石)古墳跡【地図番号 40】



34. 鐘子塚古墳の横穴式石室【地図番号 34】
(左が上)



35. 黒島林大龍王古墳【地図番号 30】



36. 黒島林 1 号古墳石室(移築)【地図番号 29】

報告書抄録

ふりがな	かんおんじしないいせきはっくちょうさかいようほうこくしょ					
書名	観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書					
副書名	平成14年度国庫補助事業報告書 詳細分布調査概要報告書Ⅱ					
卷次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	観音寺市教育委員会事務局 生涯学習課 主査 久保田昇三					
編集機関	観音寺市教育委員会					
所在地	〒768-8601 香川県観音寺市坂本町1丁目1番1号 TEL 0875-23-3943					
発行年月日	西暦 2003年 3月31日					
ふりがな 所収遺跡	コード 所在地	北緯 市町村・遺跡番号	東經 ° ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
おつかさん お塚さん	観音寺市 新田町 字立石892-2	37205	34度 5分 60秒	133度 42分 21秒	113	観音寺市内 遺跡発掘調 査事業
みこしやまづか みこし山塚	観音寺市 新田町 字堂ノ岡1274-1	37205	34度 6分 3秒	133度 42分 20秒	519	
じじんづか 地神塚	観音寺市 新田町 字堂ノ岡1285	37205	34度 6分 6秒	133度 42分 19秒	102	
きょうづか 経塚	観音寺市 新田町 字堂ノ岡1313-2	37205	34度 6分 8秒	133度 42分 16秒	404	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
お塚さん	古墳	古墳	横穴式石室?	須恵器		
みこし山塚	古墳	古墳	不明	須恵器		
地神塚	古墳	古墳	不明	無		
経塚	古墳	古墳	横穴式石室	須恵器		

観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書
平成14年度国庫補助事業報告書

詳細分布調査概要報告書Ⅱ

2003(平成15)年3月31日発行

編集・発行 観音寺市教育委員会

〒768-8601

香川県観音寺市坂本町一丁目1番1号

電 話 (0875) 23-3943

FAX (0875) 23-3925

印 刷 株式会社 三豊印刷